

令和元年度 第2回 総合教育会議 議事録		
開催日	令和2年2月14日（金）	会場
開会時刻	午後1時30分	佐渡市役所 3階 大会議室
閉会時刻	午後3時17分	
出席者		
市長 三浦 基裕	教育委員会 教育長	渡邊 尚人
	教育委員会 教育長職務代理者	佐藤 辰夫
	教育委員会 委員	仲川 正道
	教育委員会 委員	中村 友子
説明のため出席した職員		
総務課 課長 中川 宏 企画課 課長 猪股 雄司	教育総務課 課長 課長補佐 総務係長 総務係調査員 総務係主任 学校教育課 課長 管理主事 社会教育課 課長 課長補佐 ジオパーク推進室長 佐渡学センター長 中央図書館長	渡邊 裕次 高野 久之 飯田 誠 中川 啓一 尾潟 孝之 山田 裕之 濱田 晴明 粕谷 直毅 柳澤 正二 斎藤 辰弥 濱崎 賢一 源田 俊夫
傍聴人数	2人	

会議に付議した議題
(1) 佐渡市総合教育会議運営要綱の一部を改正する要綱の制定について (2) 令和元年度教育行政の成果と課題について（中間評価） (3) 令和2年度教育行政の方向性について (4) 今後の学校再編整備に関する検討について

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長 ・ 中川総務課長 ・ 渡邊教育総務課長 ・ 中川総務課長 ・ 委員全員 ・ 中川総務課長	◎本総合教育会議は、午後 1 時 30 分から開催した。 ・ ただ今から令和元年度第 2 回佐渡市総合教育会議を開会いたします。 ・ 初めに市長からご挨拶をお願いします。 ・ 今日はお忙しい中ありがとうございます。お手間を掛けさせます。今年 2 度目の教育総合会議になりますが、今日次第にも書いてありますように、運営要綱の一部改正、その次の令和元年度の成果、中間評価のところが一番メインのやり取りになるかと思います。それも含めて今日も忌憚のないご意見をいただきたいと思いますし、最後の方は学校の再編整備のところについても意見交換させていただければと思いますので、遠慮なくどんどんやり取りして、また次へつなげたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 ・ それでは、着座のまま進めさせていただきます。 ・ 本日の会議につきましては、午後 3 時 30 分までとしております。会議の進行にご協力をいただきますようお願いをいたします。 ・ なお、会議は公開で行いますので、ご了承をお願いいたします。 ・ それでは、議題 1、佐渡市総合教育会議運営要綱の一部を改正する要綱の制定について事務局から説明をお願いします。 ・ それでは、私の方から説明させていただきます。資料 No. 1 をご覧ください。 ・ 「佐渡市総合教育会議運営要綱の一部を改正する要綱の制定について」という議題です。新旧対照表をご覧ください。まず、第 3 条第 1 項に、既に存在しない「教育委員長」という職がありますので、「教育長」に直します。 ・ 同条第 2 項に「市長は、会議の議長となる」という規定がありますが、「市長の指名する者がある場合は、この限りでない」というただし書を加えます。これは、市長が総合教育会議の中で積極的に発言しやすい環境を模索し、柔軟に対応したいというものであります。 ・ 第 6 条の事務局については、「学校教育課」から「教育総務課」に移管するものです。 ・ なお、「総合教育会議の運営に関し必要な事項は」、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、「総合教育会議が定める」とされておりますので、本運営要綱の改正については、本日の会議の議題とし、承認いただきたいと思います。 ・ 以上です。 ・ 説明は終わりました。 ・ これより意見交換に入ります。発言をされる方は挙手の上、お願いをいたします。意見等ございませんでしょうか。 ・ 質疑なし ・ それでは、この改正につきましては、ご了承いただいたものということで進めたいと思います。
--	---

・渡邊教育総務課長	・ 続きまして、2 番目、令和元年度教育行政の成果と課題について（中間評価）と 3 番の令和 2 年度教育行政の方向性につきましては、関連がございますので、一括して事務局の方から説明をお願いします。 ・ 議題 2 と 3、一括で説明をさせていただきます。資料はNo. 2 とNo. 3 をご覧ください。本年度の教育行政の進捗状況や成果を確認し、課題及び今後の方向性について検討するため、主な事業を資料No. 3 のとおり中間評価票として取りまとめました。巻末にある数値の一覧は、現在の教育振興基本計画の平成 31 年度目標に対する実績値、または見込値を入れてあります。資料No. 2 は、教育振興基本計画の基本目標、施策、事務事業の一覧、中間評価票の事業がどのように対応しているかというものを見える化したものです。 ・ 中間評価の概要について説明いたします。資料No. 3、1 ページから 3 ページは、基本目標 1、「学ぶ意欲を高め確かな学力等を育成する教育の推進に」に関する事業です。1 ページ、全国学力・学習状況調査の結果です。小・中学校とも国語は全国平均を上回ったものの、算数・数学は全国平均を下回りました。基礎的な内容についての定着が課題であり、今後、補充学習の充実を図るための研修会を開催し、学力向上の具体策を実施します。 ・ 家庭学習習慣の確立に関して、小学校はほぼ目標値を達成しましたが、中学校は大きく低下したため、原因の分析と今後の具体的な改善策を実施します。 ・ 3 ページ、特別の教科としての道徳が始まりました。その指導法や家庭、地域との連携の在り方について研修を継続していきます。 ・ 4 ページ、5 ページは、基本目標 2、「郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進」に関する事業です。4 ページ、子どもたちの社会的、職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てるため、佐渡学を中核とした体験的な郷土学習や中学校における職場体験活動を行っています。順調に活動を展開しており、今後も学校訪問や研修会の開催などの支援を継続していきます。 ・ 5 ページ、電子黒板などの I C T 機器について、本年度までで 19 校に設置し、授業で積極的に活用しています。国の経済対策により今後タブレットの導入や無線 L A N などの教育環境整備を行う予定で、情報化社会に的確に対応できる人材の育成を図ります。 ・ 6 ページから 8 ページは、基本目標 3、「安全・安心な学校づくり」に関する事業です。6 ページ、現在、八幡小学校校舎棟の耐震補強工事を行っていますが、次年度は体育館棟の工事を行い、市内小中学校の耐震改修工事はこれで終了となります。 ・ 7 ページ、いじめの早期発見や孤立しそうな子どもたちの心の居場所としての「心の教室相談員」は効果がありましたし、不登校訪問指導員や適応指導教室等での児童生徒や保護者への支援、学校と連携した取組は、不登校者の学校復帰や欠席日数の減少に効果が見られました。今後は、不登
------------------	--

校になる前の対応にも力を入れていきます。

- ・ 9 ページから 15 ページは、基本目標 5、「一人一人が学び続ける社会教育の充実」に関する事業です。9 ページ、市民大学講座、子育て、親育ち学級は、本年度それぞれ 5 回開催しました。今後アンケート調査を実施して、よりニーズに合った内容を検討していきます。
- ・ 10 ページ、スポーツ教室の参加者は増加していますが、より P R していくとともに、新たなスポーツ活動に携わる指導者、あるいは指導者候補への受講の拡大を図り、さらにスポーツ実施率の向上を図ります。
- ・ 11 ページ、図書館・図書室の利用者は、土日開館の効果もあり、増加傾向ですが、遠隔地にお住まいの方には移動図書館事業で本の貸出しを行っており、これも利用者が増加しています。インターネットの活用など利用者のニーズが多様化しており、職場内研修による職員のスキルアップが求められているところです。
- ・ 13 ページ、博物館は、本年度特別展・企画展を 3 回実施することにより、佐渡の美術工芸の素晴らしさを発信してきましたが、常設展示の更新や年間を通したストーリー性のあるテーマの設定により、より集客に努めていきます。昨年 10 月、即位礼正殿の儀の日に施設の無料開放を実施した際、駐車場に車が停められないほどの来館者数がありました。これを参考に今後文化や歴史を学習する機会の拡大を図っていきます。
- ・ 15 ページ、佐渡ジオパークの普及啓発とガイドの養成につながる市民講座や地域における学習会を開催し、市民への啓発に努めました。その結果、昨年 12 月にジオパーク再認定となりましたが、今後も市民への普及啓発活動をより効果的に行っていきます。また、全ての学校に出前授業を行い、子どもたちの関心や理解を深めていきます。
- ・ 16 ページ、17 ページは、基本目標 6、「家庭教育・地域教育充実のための取組の推進」に関する事業です。16 ページ、地域学校協働活動では、全校に地域コーディネーターを配置し、学校支援、学習補助、読み聞かせ等の活動を実施しています。放課後子ども教室は、今年度から八幡小学校が新たに加わり、4 教室が取組を行っています。今後全ての学校で行うには、コーディネーターの育成や学校の協力が必須となります。また、次年度家庭教育支援活動について、佐渡市版の「家庭教育の手引き」を作成し、配布するよう努めていきます。
- ・ 17 ページ、学校、保護者、地域の連携によるコミュニティ・スクールは、順調に設置が進んでいます。令和 2 年度は、全校の設置に向けて取り組みます。制度周知に向けて、教職員だけでなく、地域コーディネーターやコミュニティスクール・ディレクターも一緒に参加しての研修会を実施しましたが、具体的な運用に向けて今後も研修会を実施していきます。
- ・ 最後に、18 ページ、数値の一覧ですが、現在の教育振興基本計画の平成 31 年度目標に対する実績値、または見込値です。まだ事業が終了していないものについては暫定値、または見込値のものを記載しています。

・ 中川総務課長 ・ 仲川委員	・ 以上です。 ・ 説明は終わりました。 ・ これより意見交換に入りたいと思いますが、進め方としまして、資料No. 2に従いまして、基本目標ごとに意見交換をしたいと思います。 ・ それでは、まず、基本目標1について意見のある方は挙手をお願いします。 ・ 施策1について意見を述べさせていただきます。1ページをご覧ください。「全国学力・学習状況調査」で全国平均以上の教科・科目の割合（小・中）、令和元年度目標値が75%、実績値が40%。併せて細事業、枝番1、小学校・中学校の算数、数学の実績値が小学校については目標値+0.5のところ-2.6%、中学校の数学については目標値±0のところ-5.0%。3番の家庭学習習慣の確立については、特に中学校に大変大きな問題があり、目標値70%のところ53.7%という状況になっています。例年以上に悪い結果です。このことに関して意見を申し上げます。 ・ 先頃、市教育委員会ホームページに掲載されておりました「きょういく佐渡」最新号によりますと、昨年度まで2年間の「学力向上数学専門監事業」、及び今年度実施中の「数学学力向上プロジェクト」についてのコラムがございました。その中では主に「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業をうたっておられました。しかし、こういった3年間の数学プロジェクトにもかかわらず、全国学力調査に現れた実態としては、佐渡市立中学校の数学の学力については一向に改善の方向が見えず、今年度は下降してしまっているということが分かります。 ・ 学力向上が実感できないのは一体どこに原因があるのか。3年間のプロジェクトは、現実的に数学の学力向上に機能しているのか、しっかりと調査をして原因を探り、対応してほしい。2ページを開いてください。2ページの枝番1の最後の文章、「研修会を開催し、学力向上のため具体策を実施する」、そして3番の最後の2行。「数値が下降した原因を分析するとともに、家庭学習習慣確立のための具体策を実施する」この文言は私の方で意見を申し述べて事務局案に追加させていただきました。分析だけでは駄目なのです。分析を次のアクションに生かしていくことを、早急に実行するよう期待します。 ・ 併せて、各小学校、中学校では、学力向上に係る自校の課題を自ら明らかにし、自校に適した改善策をPTAやコミュニティ・スクール運営協議会等に公表した上で協力を求めて実行してもらいたいと願っております。何のためのコミュニティ・スクール運営協議会なのか、何のためのPTAなのか考えながら、協力を求めて一緒に動いていてもらいたいというのが私の希望です。 ・ もう年度末に来ておりますので、次に私が述べることは今年度は不可能ですが、私の考えを申し述べておきます。近い将来教育行政としてできることは何か。例えば数学学力強化推進校、英語学力強化推進校等のモデル
-------------------------------	--

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長	校を募集ないしは指定した上で、対象校を人的、物的に支援するという方策を取る。モデル校は、数年にわたって当該の課題について実践研究し、有効と判断できる方策については市教委が指導して全島に普及させる。また、市立小中学校では特色ある教育を実践している学校には通学区を超えて通学できるという規定ができるようですが、モデル校をその特色ある教育の実践校として認定し、希望する児童生徒が学区を超えてモデル校に通学できるよう配慮する。市教委でも実効性が期待されるビジョンをこの機会に打ち出して取組んでいただきたい。 ・ それでは、市長、お願いします。 ・ 今仲川委員が仰ったことはまさにそのとおりだと思います。ここを付け加えていただいたというのを今説明いただきましたが、例えば枝番の3番の方で言いますと、原因分析を今後も含めて、年度内のどの期間どのぐらいの時間をかけて分析した上で、次の改善策へいくのかという、そのスケジュール感がはっきり見えた方がいいのかなと。完全に年度が終わってから、新年度に入って分析しましょうとなると、分析している間にその1年間は、いってしまうというところが出てくるとと思いますので、その辺のPDCAのサイクルをどのように組立て、例えば年度の中間点なりの段階の中間実績等の数字が出た時点で、そこで原因分析に着手するとか、いろいろな考え方があると思います。その辺のところを教育委員会と委員の皆さんの意見もいただきながら、どのようなサイクルで回していくべきかというのは、ある程度共通項で固めておいたらいいのかなという気もいたします。 ・ モデル校のお話、その設定で、1年だけのモデル校では多分効果は現れないと思うので、委員が仰ったように、3年なりのスパンでということは考えるべきだと思うのですが、モデル校の選定するための材料というものが私たちも見えていない部分がありますので、その辺もご意見いただいた上で、できれば早期実現に向けて動いた方がいいと思います。
・ 中川総務課長 ・ 佐藤委員	・ 今ほどの市長のご意見等も踏まえましてどのようなご意見があるのか、挙手をお願いしたいと思いますが。 ・ 基本目標1に限らず、全体的に各施策、事業について現段階における進捗状況、中間評価、そして今後アクションにつながる課題や対策が示されている。これは非常に有難いというか、説明を聞きながら、有難いと感じたところです。さて、1に関して今ほど仲川委員からお話があり、市長からもお話いただきましたが、私もこの冊子の中でとにかく具体的な手だてを打たないと、明日の佐渡、子どもたちの教育に大きく関わることでありますので、非常に何かあるだろうかと考えてきました。 ・ 以前、学校、地域、保護者の教育懇談の場がありました。その場で地域の代表の方、ご高齢の方でしたが、学校に期待することということで挨拶の中で、学校があるこの地域に子どもたちが誇りを持って、この地域が好きだという生徒を一人でも多く育ててほしいと声高らかに話をされまし

た。そして、それに引き続いて、それでは学習はという話が出ましたら、その代表の方は、そんなことは言うに及ばぬことだ。学校で学力抜きに論じられる訳がない。私があえて言ったのは、さらに学力を付ける、それは学校の務めだから、または教育現場、教育行政の仕事だから、私が言いたいのは、その地域を愛し、その地域に誇りを持つ、そして将来できればこの地域で生きていきたい、こういう子どもを育ててほしいという意味で言ったのだと言われました。参ったというよりも、皆さんが頷くと言いますか、これは、私はその場にいる人ばかりではなくて、佐渡から全国に、また他の地域で活躍し、そして佐渡を振り返っている方々皆さんの同じ気持ちだろうと思って、そして折々に触れて思い出し、また今回この資料を見ながら、その日のことを思い起こしておりました。

- ・ 昨今なぜなかなか成果が出ないんだろう、こういったときに、授業改善に向けて学校現場では先生方研修、講座等いっぱいやっています。それぞれ授業改善もなされたと、こういうことで、その進捗状況、また成果等も聞かせていただいております。ただ、子どもの学力といってもいろいろな学力観がありますが、いずれにしても、私はこれは危機的な状況だと思うのは、2ページの課題と対策の2行目にあります「基礎的な内容についての定着が課題である」、この言葉は非常に大きな問題だなと思っています。
- ・ 昨今知識偏重、偏差値是正とか、時代が変わって、主体的な学び、そしてアクティブラーニング、そういった授業形態等論じられているところがありますが、ある面から見ますと、これにも若干の陰りが出てきているという文書がありました。それはなぜか。主体的に学ぶとか、これは主体的、対話的に学ぶ、こういう授業には知識を抜きにしては絶対に成立しないということでもあります。知識と知識をつないでいく、そしてそれを生活、次の学習に生かしていく、そのためにはとにかく知識は身に付けておかなければ、友だちと論じる、学び合う、ここにつながらない、限界がある。そういう意味で基礎的な内容について定着が課題だ、これは非常に大きな問題であり、何か手を打たなければいけない。その中で校長会、教育研究会、それぞれに懸命に動いているという記録があります。
- ・ そして、その欄の下から2行目に「補充学習の充実を図るための研修会」、こうなっています。ぜひとも私はこの補充学習を充実させる、この部分は本当に大事だと思います。かつて学校現場には、放課後学習とか、補充学習というのがありましたが、昨今あまり聞きません。学習内容も増えている中で、補充学習は確実に必要だと思います。
- ・ そして、もう一つは、3番の家庭学習習慣、こちらの方もなくてはならない。絶対量が足りない、学習の絶対時間が私は不足していると思います。子どもたちにもっともっと学習の時間を質的に、量的に保障してあげなきゃいけないだろうと思います。そのためには、PTA連合会の協力を得るとか、それから今現在子どもたちの実情がどうであるかということを幼児、

・三浦市長 ・山田学校教育課長	園児、そして小学生、中学生、実態はどうかという捉えを佐渡市の方でも捉えていただきたい。 ・ 先日、これは佐渡ではありませんが、ある方にお会いしましたら、百数十人の保育園の園長さんが調査をしたら、その園では4割の園児が10時以降、中には11時以降の就寝である。会話を聞いていると、スマホの話やゲームの話とか、そういうものがあつたり、朝食を食べていなかったり、幼児、園児の段階でそういう非常に問題であつて、保護者に年末の懇談会で話をした、こう言っておりました。佐渡の方は私は分かりません。ぜひ実態をまず捉えていく、そういった取組をお願いしたいな、これが課題の明確化、また解決につながるのだろうと思います。 ・ 少し長くなりました。 ・ 佐藤さんが仰ったので言うと、逆に私も全部見えていないので、トータルの数学等の数字、実績値は出ているのですが、例えば地区や学校によって大きな開きや極端な部分があるのか、全体的にこういう状況なのかとか、その辺のところ学校の校長先生らの分析も含めて教えてほしいなというのがあります。 ・ まず、今回は令和元年度の数値のところ特に算数、数学ということで話題になっておりますが、実はその前の年、30年度までについては、全国平均に達していない部分、算数、数学にはあるのですが、徐々に近づきつつありますということで市長の方にも教育委員の皆様にも報告させていただいておりました。ところが、元年度の実施については大きく算数、数学に関しては数字を下げたというのが実態です。これは、皆さんもご存じのように、小学校は6年生、中学校は3年生のみを対象として行っているテストですので、学年によってその有意差が出るということも当然あると思います。これがまた2年も3年も続くということになれば、これは本当に問題であるし、今回の数字は決して問題ではないと言うつもりはないのですが、学年の特性というものも場合によっては出てくる可能性もあるというので、各種他のテストであるとか、そういうものも併せてこれまでの傾向もどうであつたかということも含めて我々も分析はしておりました。 ・ 当然市長の仰るように学校間の差もあります。そして、大きな傾向としましては、どちらかという生徒数の多い学校の方がなかなか数値的には厳しい状況にあると。背景には、学校が少し安定していないような背景、生徒指導が少し困難になっている状況もあるということで、そのあたりの措置も含めて何とか人的配置をとということで、今、来年度に向けてそういう措置をしたいということで対応策を考えているところです。 ・ あとまた1つ気になる場所としては、小学校の算数の成績が数年前まではほぼ全国平均、年によっては少し上回るくらいの数字が出ていたところが最近、30年度までわずかではありますが、下回る傾向があり、そして今年度は少し大きく開いてきたと。つまり小学校時代からの算数の授業の積み上げというものがどうなんだろうかというあたりまで立ち返って、し
-------------------------------	--

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長 ・ 山田学校教育課長 ・ 仲川委員 ・ 三浦市長 ・ 中川総務課長	っかり分析していく必要があるのかなと思っています。 ・ 以上です。 ・ 学校教育課の方から補足がありました。どうでしょうか。 ・ どなたか言っていただければと思いますが、生徒数が多いほど数字が少し。 ・ 多いほどと言うのは極端ですが、規模の比較的大きい学校の方がいろいろな生徒がいるということで、学級の児童生徒数も多いですので、そういう点では少し不安定になっている学校もあるということです。 ・ 先ほどの私の発言に関係のあることで伺いたい。以前これまで十数年間の学力データをグラフで見せていただいたことがあります。一時期数学と英語の学力が大きく向上した時期がありました。その期間は何年間か、向上策を打ったのだと聞きました。そのことについて、かつてある方に、話を伺ったことがあります。「その施策を打ったことで確かに学力は上がったと思う。それが中学校、高校と続き、高校卒業時の進学実績が数年間大変よかった時期がある。必ず関連があると思う」とその方は言うておられた。 ・ 各校の取組もそうだが、佐渡市教育委員会として何か大きな仕掛けを作るということがとても大事なことだと思います。せっかく過去の実績があるのです。これまでの経緯を振り返り、因果関係を明らかにして同様の施策や進化した施策を実施してもらいたい。各校の個別の問題も当然あります。それは、各校の校長先生にやってもらわなければいけないのですが、市教委としてやるべきことはもっと大仕掛けの取組ではないかと私は考えています。 ・ これは、佐渡の将来にもつながってきます。高等学校からの進学の質的向上について言えば、例えば佐渡にお医者さんを増やしたいと思っても、医学部を出て医師国家試験に通っていなければ医者にはなれません。そういう人たちに佐渡に帰ってもらうという大きな流れの中に佐渡市の義務教育はつながっているわけです。単に実績を上げろということではないのです。 ・ 後で教育委員会の考え方も聞きたいですが、学力そのものとは違うのですが、例えば令和元年度ふるさと納税でいくと、過去最多の2億5,000万ぐらいになりそうなのですが、いろいろなコースが5つぐらいあるのです。その中の一つに佐渡の未来を切り開く人材を育成するコースにほぼ半分近い寄附金が集まるのです。それほどやはり島が復活、再生するには人材でしようという意識がそこにも表れていると思うのですが、やはり人をどうつくるかというのは長期的なルールに乗せるところは必要になると思うので、その辺教育委員会側で何かありますか。 ・ それでは、時間もありますので、もし最後に一括してまた残したことがあればというところを取っておりますので、次の段階、基本目標2でございます。キャリア教育の推進でございますが、意見のある方につきまして挙手をお願いしたいと思います。
--	---

・ 三浦市長	・ もしでしたら市長の方からということも。 ・ 長くするつもりもないのですが、ここの項目等については、目標値も実績値も 100 という形になってきているのは非常にいいことだと思うのですが、一番大事なのは、ほぼ取り入れている割合等が 100%に達した後の、今度維持しながらの質の大事さというものを、どうしても喉元過ぎればと なりかねないところがあるので、そこは本当に細かく気をつけながら今後も継続、維持をしていただきたい。
・ 中川総務課長	・ 市長のご意見もありましたが、その意見も踏まえながら、この項目の中でご意見がありましたらお願いしたいと思います。 ・ 無いようでしたら、続きまして、基本目標の 3 についてご意見のある方、お願いしたいと思います。安全・安心な学校づくりということでございます。
・ 三浦市長	・ もし教育総務課の方で、八幡小学校で耐震は一応一通り実施しますが、今後長寿命化とか、改修もかなり抱えているようなところも教育委員の皆さんに概略説明してみたらいかがかなと思うのですが。
・ 渡邊教育総務課長	・ 6 ページに八幡小学校のことが書いてあります。令和元年度、八幡小学校の校舎棟について耐震工事が終了しました。来年度は体育館棟の耐震工事を実施して、一応市内学校については耐震化率 100%という状況になります。この後、令和 2 年度以降、学校施設の長寿命化、あるいは大規模改修という事業が始まっていきます。今のところ市長査定も終わりました、調査のための予算を付けていただいておりますので、この後議会にも提案していきます。今の学校がほぼ昭和 40 年代から 50 年代にかけて建設され、築 30 年、場合によっては 40 年経過しているという、かなり老朽化している施設がほとんどです。この後、学校統合等の関係もありますが、より良い教育環境を目指すためには、改修工事が必要になってきます。来年度については、小学校、中学校、どこの学校というのはまだ公表できませんが、長寿命化のための設計とか、耐力度調査というようなものを来年度以降実施し、令和 3 年度以降現場の工事にも入っていきたいと考えています。今のところ昨年作りました学校施設長寿命化計画の中では、現段階の試算としまして、向こう 40 年間で約 850 億円ぐらい、維持管理も全部含めてですが、掛かるという試算がされておりますので、この後いろいろ物価の上昇とか、消費税の関係もありますが、かなりの金額がかかります。それから、市全体におきましても、この後いろいろ大きな事業がありますので、財源の確保を十分に念頭に入れながら、計画的に学校の改修に携わっていきたいと考えています。
・ 中川総務課長	・ 以上です。 ・ 今ほどの説明も聞いた中でご意見をいただければなと思いますが。
・ 中村委員	・ 中村委員、何かありますでしょうか。 ・ 実際に見て触れたときに割と古い体育館を使っている小中学校がありまして、2 階のギャラリーを通過できないですとか、使用できないという学

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長	校も多々ありますので、そういう場合スポーツ大会、あと学校行事等で保護者、多くの生徒が集ったときに場所が限られてしまい窮屈であったり、不便さがあつたりするので、老朽化と耐力度検査等が必要になってくるかと思いますが、優先順位を考えて実施をお願いしたいと思っています。 ・ 以上です。 ・ 今ほどの意見につきまして市長の方いかがでしょうか。 ・ これは、教育委員会の方とも長期的な計画をしっかりと作りましょうということでやり取りさせていただいております。本当にこの島、小中学校、同じような時期に建てているものが非常に多いものですから、時代が少しずつずれていて、この順番に直していけばというのがなかなか優先順位を付けるのが難しい。やはり築後 30 年、35 年、通常なら 20 年以内に一定の定期メンテナンスとかしていなければいけない部分もあったと思います。そこもなかなかままならずに来ている中で、かなりのコストが間違いなく掛かりますので、それこそ今中村さんが仰っていただいたように、まず最初の 5 年、その次の 5 年、どういうところからしっかり手当てをしていくかというところを、財源も見ながら組立て、そこのレールをしっかりと敷いて長寿命化工事に取りかかるしかないと考えております。ここはお金が無いから、どんどん後回しにという訳にいかない作業でありますので、そこは他の建設事業と比べても優先順位を上げて取組まなければいけないものだと思っております。 ・ 他にいかがでしょうか。 ・ 施策 9 で不登校の発生率であります、ここの 7 ページでは 1.5 の目標値に対して 2.1 ということで、課題が大きく見えている訳であります。その中で、8 ページにわたってその他として、新たな計画のことで恐縮なのですが、小学校、中学校別に不登校の割合を今も捉えていただいているのですが、小学校と中学校を平均してしまっている、こういう数値になります。例年から全国的に、特に新潟県での不登校の問題の捉えとしては、小学校から中学校に進学すると 2、3 倍に急増する。いわゆる「中 1 ギャップ」という言葉が新潟県教育委員会、全国に広めた訳であります、佐渡はさらにこのギャップが大きいと捉えています。先日、小・中別にいただきました。佐渡は、県の平均よりも中 1 ギャップの割合が高い。なぜだろうと思う訳であります。今後小・中学校別に捉え、なぜ急増するのか。こういうことがあります、保護者も、小学校幾つか合わさって中学校行くんだよね、または、この後の議題にもありますが、より大きな学校にと言ったときに不安を抱くのは当然だろうと思います。これは、子ども一人一人のいいとか、悪いとかじゃなくて、そういう集団、人と人との関わりを上手く持っていくのが苦手だということか、またそういう資質が身に付いていないということか、また別の課題があるのか、この辺りを今後明確にしていけないといけないかと思ひます。 ・ それに不登校、小・中ばかりでなく、高校にも全て派生していくことで
--	---

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長	すし、社会全体にもこういう人と人との関わりを上手に作っていく、コミュニケーション能力を育成する、これは非常に大事なことだろうと思います。実はキャリア教育というのは私はコミュニケーション能力というの大きな要素に捉えています。キャリア教育がうたわれていた平成の半ばにはコミュニケーション能力の育成ということで、小・中・高には具体的に示されておりました。昨今は、キャリア教育というと少しウエイトを掛ける方向が、時代としては変わりましたが、やはり原点だけは忘れてはならないだろうということで、課題を明確にする意味で、この 8 ページに書いてあることはぜひお願いしたいと思います。 ・ 以上です。 ・ 中 1 ギャップ等のお話でありましたが、市長、どうでしょうか。 ・ 何が答えなのか明確にあるものではないので、恐らく当然人付き合いが上手くいかない人は、一緒にいる学年が段々規模が大きくなれば当然余計引っ込み思案になるのだらうと思うのです。ここにある適応指導教室の運営みたいところの、それだけ症状とか、傷が浅いうちにそこで止めて深みにはめないで済みますかというところでいかないと。どっぴりと不登校になってしまった方を戻すのは大変だと思うので、不登校になる前が一番大事だと思うのですが、その症状の気づきをどうするかというのが難しい。 ・ 7 ページについて言いますと、中間評価ではありますが、心の教室相談員事業は大正解だと思っています。子どもたちの中には例えば自分の担任の先生と上手く話せない、それから相性が悪いというような子もいるのかもしれませんが。先生とは立場が違う人間が 1 人いて、ゆっくりその子のために時間を取って話を聞いてあげるといことはすごく大事なことです。1 人の相談員の方が延べ生徒数、目標値 500 となっていますが、一人でも多くその子の心中を理解してあげて、先々救ってあげられるようになれば、それで大正解だと思います。私はこの事業は大変評価をしております。拡大できるのであれば拡大をして、できれば男の相談員の方と女の相談員の方と、今性別言うのは申し訳ないですが、男の先生なら話しに行きたいとか、女の相談員の方なら話しに行きたいというようなタイプの生徒もいます。場合によると、私が関わった高校生は、ネクタイをしている、背広を着ている人を見ると萎縮すると。ですから、なるべくカジュアルな服装の方がいいという女子生徒もかつておりました。いろいろなタイプの子がいるのだということを意識した上で、いろいろな受け入れる力のある大人を配置できると有難いなと思います。 ・ 他にご意見はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。 ・ 次は結構ボリュームのある話題になるかもしれませんが、基本目標 4 と 5 を合わせてお願いしたいと思います。4 番、高等教育・研究機関との連携の強化、5 番、一人一人が学び続ける社会教育の充実、というところの中では公民館、スポーツ、図書館、博物館、文化・芸術、と大分広範囲の中身となっていますが、この部分につきましてご意見の方お願いいたします。
-------------------------------	--

・仲川委員	す。 ・ 13 ページ、博物館・資料館管理運営事業について、D o の算式として「博物館、資料館及び類似する文化施設に入館した割合（小・中）」をパーセンテージで掲げてあります。これについては全体の入館者数、つまり分母が増えれば小・中の割合が減ってくるのは当たり前のことで、実績評価にならない。事務局にお願いしましたところ、14 ページにある新たな指標に変更することを明示していただきました。 ・ この博物館、資料館について中間評価とは別に市長さんの意見を伺いたい。平成 30 年 10 月に三浦市長のもとで総合教育会議を開いたときに、博物館等については「合併後の一番の積み残し」、「博物館を見直すのは今しかない」、「担当課にお願いして計画だけは今年度、（つまり平成 30 年度）中に作ろう」という発言が市長さんからありました。期待をしておりましたが、その後計画案が示されずに既に 1 年半が経過してしまった。 ・ 既に担当課や財政課、協議会等で検討を進めておられるものと期待しているのですが、我々教育委員には計画案の影すら見えてこない。現段階で市長さんは博物館、資料館の統合整備についてどのようなビジョンをお持ちか、タイムスケジュールを考えているのか、概略で結構です。
・三浦市長	・ まずは、今ご指摘があった遅れていることについては本当にお詫び申し上げます。30 年 10 月の会議のとき、あのよう to 答えさせていただいたのは、30 年度の冒頭に担当課の方に今年度内で、いわゆる既存の博物館についてもそれぞれの特徴、特色、色分け、そこのまず基本的な考え方を 1 年間で取りまとめてくださいという指示を出してあったものですから、それでこの年度内にといいことで言わせてもらったのです。結局昨年 of 3 月、いわゆる 30 年度末になった時点で、全くできていませんでした。今年度令和元年に入って改めて、とにかく博物館計画を今のままでは駄目だと。もう一回交通整理して、どの博物館はどういう役割、機能を持たせるのかといふことを、まだお示しできていないのは申し訳ないのですが、今佐渡学センターが中心になりまして、現状佐渡の博物館計画といふものを策定して、今骨子の素案まではかなりできてきている段階です。本当に遅れて申し訳ないのですが、その計画の策定完成を令和 2 年度、この 4 月からの年度で全部完成させて、その計画に基づいてしっかり今後の博物館の位置づけ、色分けを運営に変えていきたいといふことで今取り組んでもらっています。ざっくりした骨子案といふものは、昨年の冬場になってある程度骨子だけは今できて見させてもらったばかりのところでありまふ。その辺できたら説明してください。 ・ 今ほど市長が言われたとおり、大変遅れていて申し訳ないのですが、これまで博物館協議会とか、今度 18 日に博物館の部会があるのですが、そういったところで先ほど市長が仰られた骨子みたいなものを見ていただきながら、作っていきたいと考えております。目途としましては、来年度の夏ぐらいまでにはある程度 of ものをビジョンとして作り上げたいといふこと
・粕谷社会教育課長	

・仲川委員 ・粕谷社会教育課長 ・三浦市長 ・粕谷社会教育課長 ・濱崎佐渡学センター長 ・中川総務課長 ・三浦市長 ・中川総務課長 ・仲川委員	で進めております。 ・ この夏ということですか。 ・ はい。これを決めるに当たって皆さんの意見をお伺いしなければならないこともあるものですから、順調にいくかどうか多少不安なところがありますが、私どもとしましては、夏ぐらいまでを目途に取組んでいきたいと考えております。 ・ もし目標としてその前段階の例えば意見とか、いろいろ検討してもらう場とか、例えばどの辺のタイミングだと次の総合教育会議でも骨子案をしっかりと示せるとか、その辺の目途がもしあったら。 ・ 具体的なお話ができなくて申し訳ないですが、当然ある程度のお話が決まった段階で教育委員会で報告したり、そういったところの対応をしたいと思っております。細かいところのお話につきましては、佐渡学センターの濱崎から説明します。 ・ 今、協議会の下に検討委員会の部会というものを立ち上げています。今後2月18日に検討会を行いまして、そこである程度の方針を決めたいと思っております。その後何回か会議は開かなければならないと思いますので、恐らく来年度になれば住民説明会とか、またパブリックコメント等を行いまして、8月頃には作成できるかなという流れであります。 ・ 今ほど説明がありましたが、どうでしょうか。よろしいでしょうか。 ・ それでは、他にご意見ありませんでしょうか。中間評価、それから別紙で参考値というような形でA4、1枚のものも配られているようですが、その辺、9ページ、10ページ、13ページの追加の説明数値みたいなものがあります。それも踏まえた中でご意見等いただければと思います。 ・ よろしいでしょうか。 ・ 続きまして、今度は最後の目標であります、基本目標6であります。家庭教育・地域教育充実のための取組の推進ということであります。施策17、18とありますが、ご意見のある方は挙手をお願いしたいと思いますが、よろしくお願いします。 ・ 市長の方からはどうでしょうか。 ・ 地域コーディネーターの全校配置とか、コミュニティ・スクールもこの新年度で全校設置する目標を掲げるとか、何かやはり例えば30年度でコミュニティ・スクール4校モデル校でやった中で、1年間の中の良かった部分、少し修正中なものとかというものを新たな他の学校に対して前材料としてしっかりお渡しした上で取組んでいただく。そのチェック・アンド・リリースじゃないですが、そのやり取りというものは常に続けていくことだけをお願いしたいなと思います。どうしても全校配置とか完了すると、そこをゴールと思ってしまう部分が出てきてしまうのですが、そこはそこがスタートだという形で取組んでいただければと思います。 ・ 他にありませんでしょうか。 ・ 16、17ページに関連して、特に17ページの意図（目標）のところに「児
---	---

・ 渡邊教育長	コミュニティ・スクールに行くんだよ、何するのか、昔の遊びをやりに来たんだ、私はこういう役だったんだと聞いています。平成に入ってすぐ、日本にコミュニティ・スクールが設置されると聞いていました。その頃からのコミュニティ・スクールというのと、現在のものは日本型コミュニティ・スクールだなどと思いながら、当然現状に合わせるのはいいのですが、このように地教行法と社会教育法に基づいて設置されるものには、狙いがきちっとあると思うのです。そのすみ分けこそ成果に結びつくと思いますし、適正な評価もできるのだと思うのです。その辺り 17 ページを見ていて、コミュニティ・スクールの内容なのかな、いや、これは地域学校協働活動の内容なのかな、その辺りというのはどのようになっていますか。この場で聞くのが妥当か分からないのですが。 ・ 地域連携活動というのが社会教育課で、それからコミュニティ・スクール、学校運営協議会というのが今文科省初等教育局というところで、ここと言うならば学校教育課となるのは、事業上はまさにそのとおりであります。佐渡市の場合、3 年前からこれを進めていった訳なのですが、実はそのとき文科省の方針は 2 つに分かれていました。でも、佐渡市はそれじゃ駄目だ、私も他の教育委員会で経験しましたので、まず地域学校教育活動をしっかりおさえて人材を確保したい、そういうこと。それから始まりまして、その力をコミュニティ・スクール、いわゆる学校評議委員会の中に反映をする。あくまでもコミュニティ・スクールというのは、学校の例えば先ほど言いました学力を含めた、その改善につながるようにというのが一番であります。そういうものを連携してつなげていこうよというのが当初からの目的でありました。 ・ 今、文科省が態度が変わりまして、来年度の事業から 2 つ一緒になってやりましょうと変わってきました。ということは、よしよし、しめしめと実は思っております。ただ、予算区分がなかなか上手くいかないのも、その辺のところはどっちがこっち、これがこっちというふうにして、ある程度こちらの方で区分しないといけないなと思っております。そんなことで、活動をしっかり区別しろというのは非常に難しいのですが、あくまで学校教育という目で見るのであれば、それは学力向上に入っていかなければいけないし、学力向上のためにはどうするんだと言うと、また元に返りますが、家庭教育もしなければいけないだろうというふうにして、社会もやらなければいけないだろうと、順繰り、順繰り回っていくと思うのです。 ・ 先ほどから学力の問題もいろいろ出てきていますが、学校の先生も一生懸命やっています。ただ、力が上がらないというのは、皆さんもご存じのとおり都市部と地域との格差が近年急に広がってきているというのは、学習機会もそうですし、経済力も含めたものも諸々あるかと思います。そういう条件の中でも、我々いかに地域と連携しながら子どもたちの将来のためにできるかという形を模索する 1 つの方法であります。 ・ 例えば、今年八幡小学校が文部科学大臣賞を受賞しました。この事業
----------------	---

・ 中川総務課長 ・ 中村委員	の中には、確かに地域と楽しく遊びましょうというのがありますが、夏休みには学習教室も開いています。そんなことで、地域のこと、それから学校の学力のことも含めながら、子どもたちをつくっていききたいというのがコミュニティ・スクールの関係でありますので、もう少し時間は掛かるかもしれませんが、今いい例を、新しく始めるところには伝えて研修会等しておりますので、しっかりとこの辺伝えていきたいと思っております。やはり我々教育委員会としてはあくまでも学校を支える、支援するという立場でありますので、学校自身、校長含めた管理職にまたよくその辺を伝えていきたいと思っております。そこがやはり中心でありますので、高い意識を持って取組んでもらえるように我々も努力していきたいと思っております。 ・ その他ありますでしょうか。よろしいでしょうか。 ・ それでは、全体を通してこれだけは言っておきたいなというようなことが、もし言いそびれておるようなことがありましたら、ぜひお願いしたいと思いますが、中村委員、何かありますか。 ・ 資料3のところにはなかったのですが、施策11で大学生等との交流、施策10と11で大学に関する施策があがっております。大学生と子どもたちが関わることで、このようになっていきたいという目標を持てる。そのために学習をしなければいけないとか、あとその中に入っているキャリア教育、このような視点で物事を見るのだ、このように見ることもできるのだという比較する見方を養うことができるかなと思うのです。親から言われたり、教職員に言われても、やはり思春期であったりすると反発心があって、それに逆らってしまいがちですが、割と年が近い少し大人の人から教えてもらったり、学んだり、交流することで気持ちの変化があったりしていくことがあると思います。先日あいぽーと佐渡で大学の活動報告会がありましたが、残念ながら見には行けませんでした、5つでしたか、6つでしたか、報告していました。ちょうどその大学生とバスと船で一緒だったときに、佐渡にまた来れることが楽しい、そして今回行くときはこういうことをしよう、ああいうことをしようということですので楽しくそうに学生同士と、あと教授とお話しをしていました。佐渡についても少しこうだよ、ああだよ、すごくいいところだよ、ということを知ることができて、会話に入ることはできませんでしたが、うれしいなと思って聞きました。外から来た人を見ていいな、いいところだと認めてもらえる、それをやはり外からの人が伝えてくれることで子どもたちが見つめ直したり、見直したりすることができると思うので、ぜひとも小学生、中学生、園児も含めて交流する機会がたくさんあるといいのかなと思いました。ああいう活動報告会も、あいぽーとだったのですが、どこかの中学校の体育館とか、小学校の体育館でやってもらおうと気軽に行けて、子どもたちがそれを聞くことによって意識の変化があるといいなと思いましたので、もっと交流する機会をぜひとも増やしていただきたいと思います。
-------------------------------	--

・ 三浦市長	・ 以上です。 ・ その件お詫びも兼ねて。個別で言うともっと多いのですが、大学の数だけで言うと二十数大学が今佐渡と出入りしてくれています。その中で、せっかく 20 を超える大学がこの島にいろいろな形でやって来てくれているにもかかわらず、実際やり取りしている地域の方々以外知られていないというのが非常に大きい問題な部分があるなと思っています。実はこちらの方からお願いして、昨年春に第 1 回の佐渡に出入りしていただいている大学の、実際佐渡でどういうことをやってくれているかという発表の場を初めて設けさせていただいて、6 校参加していただきました。年々増やしていきたい、最終的には年 1 回の佐渡に関係している大学の大集会みたいな形まで持っていきたいというようなことで、幾つかの大学の教授の先生とか踏まえてお願いしながらやっていて、今年は 10 大学がこの間発表していただきました。 ・ 大学の交流のイベント等になりますと、役所では地域振興課が窓口になっています。この間の 10 大学の発表会の件が、そのスケジュールも含めて教育委員会サイドに行っていない、知らされていない。要するに告知のメールとかでやっと知ったというような状態、これが一番問題であります。来ていただいた大学の先生とか、学生さんと話しても、大学は休みの期間が長いので、小・中学校、高校まで含めた生徒さんの学校がある期間で、大学生が休みのとき、幾らでも融通を利かせて我々が来てそういう場は作りたいし、どんどんそういうところを進めていきたいと思っているので、遠慮なくスケジュールについても言ってきてくださいとまで言ってくれています。それを踏まえての現場での例えば中学生なりと大学生の交流とか、どういうことを 1 日一緒になってやろうとかというようなところも含めて複合的に組立てていけば、もっともっと大集会的なイベントへも持っていけると思います。こちらの担当課が市長部局、教育委員会別だという話ではなくて、そこは一体になってもう少ししっかり輪を広げて、なおかつ佐渡、この島は大学がない島でありますので、しっかり招致、特に中学生、高校生とかに大学というものをもっと身近に知れる環境を作っていきたいと思っております。そこは随時改善していきたいと思っています。今回は本当に申し訳ありませんでした。
・ 中川総務課長	・ 今ほどのことでも全体を通してでも結構であります、その他ご意見等がありますでしょうか。 ・ それでは、2 番、3 番の議題についてはこれで終了させていただきたいと思います。 ・ 続きまして、4 番、資料の No. 4 になりますが、今後の学校再編整備に関する検討についてということであります。 ・ まず、事務局から説明をお願いいたします。
・ 渡邊教育総務課長	・ それでは、資料 No. 4 をご覧ください。「今後の学校再編整備に関する検討について」という議題です。小・中学校の統合につきましては、平成 29 年

・ 中川総務課長 ・ 仲川委員	度で 12 カ年の計画が終了いたしました。これまでの経過に記載してあるとおりであります。しかしその後も少子化や複式学級の増加が進行しており、新たな計画の策定が求められていると認識しています。2 番の課題にもあるとおりいろいろな課題があります。学校統合は、遠距離通学による子どもへの負担や放課後活動の制約、学校が無くなることによる地域コミュニティの低下ということに対する不安等から、保護者や地域住民の理解を得ることが非常に困難な状況にあるというのは事実です。来年度以降より良い学校運営のあり方を検討する組織を立ち上げ、市民や関係機関との協議を行いながら、有識者からの提言を受けたり、教育委員会でも議論しながら、今後の方向性について、2 カ年で計画を策定していきたいと考えています。非常にナーバスな問題ですので、最初から学校数を何校に削減するというような統合目標を掲げるのではなく、学校教育環境を改善するにはどういう手段で何を目標にするのかというあたりにつきましても、慎重に協議しながら進めていきたいというように考えています。 ・ 3 番の対策（案）はあくまでも案ということではありますが、市民や関係者、関係機関と十分慎重に協議しながら、この後の方向性について検討していきたいと思います。 ・ 以上です。 ・ 説明の方は終わりました。 ・ これより意見交換に入ります。ご意見等ありませんでしょうか。 ・ 少し意見を申し述べさせていただきます。前回、学校再編整備計画について総合教育会議の議題としたのが平成 28 年 1 月でありました。思い出すのが大変なぐらいの時間が経ってしまいました。その会議の中でも賛成意見、慎重な意見、あるいは検討会議の設置という意見も出ておりました。その総合教育会議から丸 4 年が経過しましたが、結局全く進展がない状況で現在に至っている。平成 29 年度末までの 12 カ年の計画期間が満了したにもかかわらず、未実施の部分を多く残したまま、その後の 3 年間は再検討がなく、見方によっては放置をされてしまったと私は認識をしております。 ・ 令和元年度の教育委員の会議において、令和 2 年度に改定される佐渡市教育基本計画案を協議した際に、教育基本計画の項目に学校再編整備計画の推進あるいは再検討を入れたらどうかと提案させていただきましたが、見合わせになりました。数年後には小学校の入学者数が 300 人を割り込むという状況、その先は 250 人も危ういという状況がほぼ確実視される中で、現状維持はもはやあり得ないと私は考えています。もう本当に動かなければならない。先ほど教育総務課長さんから柔らかない意見がありましたが、私はもう腹を決めて今後の見通しをしっかりと立てるべき時期が来ていると考えています。 ・ 久しぶりに「佐渡市保育園・小学校・中学校統合計画」、平成 18 年 9 月の資料に目を通してみました。冒頭の「はじめに」には熱い気持ちが伝わ
-------------------------------	---

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長	る文章が続いています。佐渡市が平成 16 年 3 月 1 日の合併から 2 年半経過した段階で、もう厳しい財政状況は分かっている。「建設計画のみならず全ての部門において待ったなしの行政改革を進める必要がある」と言い切っています。教育の面からは、出生数が下降をたどって、平成 17 年では 412 人になっている。この 412 人という数字さえ今の我々には夢のように多い数字なのです。つまりこの年月が経過した中で出生数の半減が起きている。そこで、まだ様子を見ようというのは本当にいいのか。教育の問題としては、「多くは小規模校であり、施設設備の面や教員の配置において学校間の格差が顕著となり、十分な教育効果が期待できない環境にある学校が多くなっている」という認識をしっかりと書いて、教育の質の維持あるいは向上を目指すことを表明している。この目標を基にして統合計画を出した。 ・ 立案に当たっては、保育園については、「次世代育成支援対策推進協議会 保育園統合検討委員会」、小中学校については「佐渡市学校教育環境整備検討委員会」、議会では「佐渡市議会行財政改革特別委員会」の意見をまとめて、そのように進めるべく努力なさってくれた。粛々と進めてこられたのだらうと思いますが、平成 29 年度に一応 12 カ年計画が終了して、それから 3 年経ちました。もう次に進まなければならない。少なくとも検討会議については予算化をして、確実に始めなければならない。 ・ ついてはこの間、世の中ではいろいろな研究が進んでおり、例えば徳島県教委と鳴門教育大学で協力して、チェーンスクール構想という研究を 5 年も前から進めています。あるいはパッケージスクール構想というのもあります。前にも申し述べましたが、イギリスではスクール・フェデレーションという仕組みがあります。日本の研究機関で言えば国立教育政策研究所があります。例えばこういう研究を十分に活用して、有識者も入れながら、小規模校の教育の質的維持、向上について本気でやる姿勢を見せてもらいたい。新たな構想を作らなければならないというのが私の考えです。 ・ 市長、いかがでしょうか。 ・ この 12 カ年計画、現状が今切れている中でも、この計画を踏まえてこれまで 3 年間、この計画のまま、そのまま動いて、可能性を探ってきたというのが現実だと思います。ただ、この資料にあります小学校、中学校の現在の校数と計画、最終目標の計画について、当時 18 年度に作った構想の最終目標の学校数が本当に最終目標の数字がこのままでいいのかどうかというところも、もう一回見詰め直す必要があるかなということは教育委員会に言わせてもらいました。というのも、単純に子どもの数どうのこうのと言いますと、シミュレーションからしてもこういう状況になるのかもしれませんが、しかし非常に大きい島ですので、特に私気になるのは小学生なのですが、統廃合したときの通学距離、時間、ここがこのままの形の目標までいったときに、かなり子どもに辛い負荷が掛かるということです。複式学級だらけになってきている現状もあります。そこは改善しなければい
-------------------------------	--

・ 中川総務課長 ・ 佐藤委員	けないと思うのですが、近隣の違う学校との合わせ技のいわゆる画像等を使っての一緒の教育、同じ学年の授業を受けたいというようなこともできるような環境にもなっておりま。その辺を含めて従来計画どおりに統廃合を目指すべき学校である、ここの地域の学校については生徒数の減少は、児童数の減少はあったとしても、この通学的なハンディ等々も含めて別途違う考え方も模索すべきではないかというような協議は教育委員会の中でもう一回やってみてくれないかと言わせていただいたところです。それこそ単純に平成 18 年度の計画をそのままの数字を追っかけていくのか、もう一回見詰め直して修正点があるやなしや、そこの吟味をするタイミングも 1 つ設けた上で、新たな 2 次の策定計画を作っていくということをやった方がいいのかなと。正解というものは全くないと思いますので、この辺のところこそ本当に教育委員の皆様それぞれの考え方をどんどん出していただいて、どう揉むかという今後の手順を作らせていただきたいというのが私の本音です。 ・ その他にいかがでしょうか。 ・ 学校再編整備に関しては、私も任期あるときはずっと頭の中にあり、またそれに関する地域、保護者等の声がよく聞こえてきました。そして、非常に不安に思っているということです。特に未実施、18 年に出された計画に沿って未実施という可能性の部分、小学校 4 地区、中学校 2 地区、この地域の方々にはやはりそういった声があります。また、憶測で、かつてのそういった進んでいた途中のやり取りされた、または教育委員会が説明した文言の言葉をよく覚えていて、何かこういうふうに聞こえたのだが、どうなのか、私は全然個人的にも立場的にも申し上げることはありませんでした。また、できるものでもないのですが、非常にそういう意味で 29 年度からのストップしてからの、切れてからの 2、3 年は非常に申し訳ないな、はっきり言って申し訳ないな。これは、子どもにも影響することだろうと思います。 ・ それで、統合方針、小学校、中学校それぞれにあります、今見ますと、まず三川村が県下第 1 校目の小中連携校を開校する、石碑が残されています。第 2 校目、第 2 地区が出なかったらどうしよう、三川の人たちは心配したそうです。そうしたら、佐渡が 4 つ開校してくれた。よかった。それで第 1 の意味があると言って話をしておりましたが、この狙いすらも、その存続すらも危ういと言ったら失礼ですが、年によっては入学する子どもがいない、そういう現実にあります。 ・ また、複式学級の解消とか、1 学年 2 学級編制の実現、これらについても実情は厳しくなっています。統合してもさらにまだこの課題が残る、こういう状況が出ています。そういう意味で、課題幾つか挙げておられますが、これに加えてその現状、それから時間経過、これからのことを考えると待ったなしだろうと思います。しかし、焦ってはならないことです。 ・ そういう意味で、これから対策、平成 18 年に計画が出される前には平成
--	--

・ 中川総務課長 ・ 中村委員	16 年の 11 月から会が発足し、11 回の協議を重ねて、そして案を作ったと聞いております。そうしていきますと、11 回は 1 月に 1 回ずつ、毎月やっていたんだな、それでも課題がこうして残るんだな、このように思っておりますが、いずれにしましても、とにかくここの課題の最後にあります、これまでの統合したことに関する検証をしっかりしていただきたい。さらに各地区における意見聴取、有識者はもちろん住民、この住民の中には若い方とこれから子育てをする、これから結婚をするという人たちとは認識を全く異にします。それを実感したのは、中等教育学校の設置の折でした。これもこんなにも同じ地域に住んでいても意見が違うんだなと感じましたし、また家庭の中ではこの話は、爺ちゃん、婆ちゃんとは話ができない。私はこう思うと言っておりましたが、そういった年齢とか、世代等、広い世代からの意見聴取をしていただきたいし、各界はもちろんです。 ・ そして、それぞれの地域によって課題というか、子どもの数とか、実情は大きく違うと思うのです。そういう意味で、今日の資料にも佐渡市全体の子どもの数は出ておりますが、これは全て出す必要はないかと思うのですが、それぞれの地域に合った少なくとも明確な数字、その時点での明確な数字を示して、この地区ではこれから先このようになっていくという客観的な数値を明確にして、とにかく気持ちを 1 つ、思いや願いが少しでも前向きに、そして地域がまとまるような工夫をされて、慎重に事を進めていただきたいなと思います。 ・ そして、佐渡市の学校では、最後分校という形で閉じたところもありました。小・中という連携校という形のところもあり、そして分校で閉じたところもありました。ソフトランディングだなと感じました。 ・ それから、これから先のことを考えて、子どもの数だけではなくて、地域の特性からスクールゾーンというか、コミュニティゾーン、例えばお年寄りの施設と隣接させるとか、それから図書館、何かの資料の中にももっと子どもたちに図書館活用をというのがありました、そういったスクールゾーン、コミュニティゾーンという発想からまた別の視点から学校組織を作っていく、ハード面を、環境を整えていく、こういうのもありかなど。いずれにしましても、待ったなしでスタートしていただければなと思います。 ・ 以上です。 ・ 有難うございます。中村委員いかがでしょうか。 ・ 私は、保護者の立場として複式学級ではない、うちの子は違うのですが、複式学級の親御さんから学習についての不安を聞きました。やはり複式学級になってしまうと、違う学年の子をそれぞれ教えていて、きちっと自分の子どもが学習できているのかということに対して不安を持っているというお話を聞きました。それを聞いて、統合が進んでいくことによってそのような不安は解消されるのかなとは思いますが、やはり学校が無くなることによって地域の方々、地域行事とか、子どもがいなくなはならないのです
-------------------------------	---

・ 中川総務課長 ・ 三浦市長 ・ 中川総務課長	が、寂しさみたいなのところもあるので、その辺の2つの感情がやはり入り混じっていて、でも最終的に地域も保護者も行き着くところは子どもにとっていい環境、この後子どもが大人になって自立していくために必要な学習であったり、対人コミュニケーション力であったり、そういうことを養うために何が必要なのかというところをやはり最後はそこに、子どもにとって何が大事かというところに行き着くと思います。統廃合を進めるのか、この後どうなるのかを十分検討して、行う場合はメリット、デメリットも含めてきちっと説明をして、子どもたちの未来のためにどうすることが重要なのか、大切なのか、今大人ができることは何なのかというところを地域や保護者に伝えていってほしいなと思います。 ・ 以上です。 ・ 他に何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。委員さんの意見を聞いて市長いかがでしょうか。 ・ この件、今日の会議に限らず、常にこういう考え方も検討したらどうだというのがあったらどんどん教育委員会の方にお寄せ願って、それこそ先ほど仲川委員が仰られたいわゆる検討会議、作り方、あり方も含めて進めたいと思いますので、よろしくお願いします。 ・ そうすれば、大きく全体を通して何かございますでしょうか。 ・ よろしいでしょうか。 ・ それでは、予定した議題は全て終了いたしました。予定の時間よりも若干早めに終わることができました。大変ありがとうございました。 ・ 以上をもって閉会いたします。 午後 3 時 17 分終了
---	---